

ようじえんだより 2017年度3月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

3月主題『希望』

主題聖句：「あなたの未来には希望がある」 エレミヤ書31章17節

☆ 0～2歳児：大きくなったことを神さまに感謝し、共に喜ぶ。外に出て、自分から早春の自然を見つけ触れる。保護者や保育者間の丁寧な連携の中で、安心して進級する。

☆ 3～5歳児：これからもイエスさまと共に歩みたいと願う。友だちと信頼し合い、楽しさを共感し喜ぶ。お互いの成長を喜び、新しい生活に期待をもつ。

生きていてくれるだけで…

前任地の茨城県鹿嶋市とその辺り一帯、とりわけ利根川沿岸地域は、七五三を盛大に祝い伝統がありました。神社等に参拝した後、ホテルを貸し切って親戚の人などをお招きして「披露宴」を行うのです。近年はそこまで派手な七五三ではなくなってきたようですが、あの地域での七五三は結婚式並みの一大イベントでした。

なぜあの地域の七五三がそのように派手になったのかは諸説あるようですが、有力な説の一つとして、「貧困」と「伝染病」説があります。あの辺りは温暖な気候で農業・漁業が盛んなのですが、年によっては不作・不漁の年もあり、生活が安定している人は少なかったと言われます。そして子どもたちの間で伝染病が蔓延して多くの子どもが死亡したり、後遺症が残ったりするケースもあったようです。そんな中で子どもが3才、5才、7才になったことを地域のみinnで喜びあう習慣ができたのではないか、という説です。子どもが何をできるようになったか、という前に、「今日のこの日まで生きてくれた」ことを喜び合えることはとても素敵なことだと思います。

ゆっくりゆっくりバナナは熟れていく

昔の日本では七五三後から本格的なしつけを始めたようです。男の子には農作業などの仕事の型を覚えさせ、女の子は家事や仕事の手伝いなどを同じく型として覚えさせていくしつけの方法でした。それまでの年齢では比較的のびやかに育てたようです(武士階級は少し違ったようですが)。欧米では逆に幼い頃は体罰も辞さない厳しいしつけをして、だんだんと大きくなるにつれて一人の人間として対等に関わるという特徴があり、幼い頃から親とは別室で寝かす習慣があります。どちらがいいとは一概には言えませんが、乳幼児教育の世界では、日本のかわいがって育てる方法に一定の評価がされるようになりました。そのほうが自己肯定感(自尊感情)が幼い頃に毀損されにくく、安定した人として育つ傾向がわかってきたからです。

現在の日本ではしつけはもっと早くから行われますが、命や健康に関わるもの以外は、神経質になりすぎないほうがいい気がします。アフリカに「ゆっくりゆっくりバナナは熟れていく」ということわざがあります。人にはそれぞれ育つペースがあるということです。

園長：久保田愛策

年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節